

経営比較分析表（令和3年度決算）

山形県置賜広域病院企業団 公立置賜総合病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	400床以上～500床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	24	対象	ド透I未訓ガ	救臨が感へ災地
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
-	44,010	-	第2種該当	7：1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

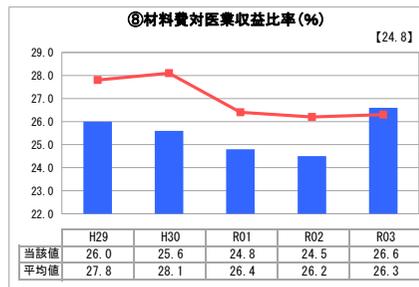
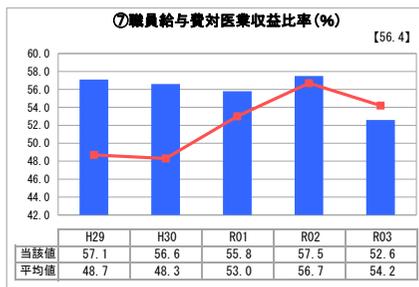
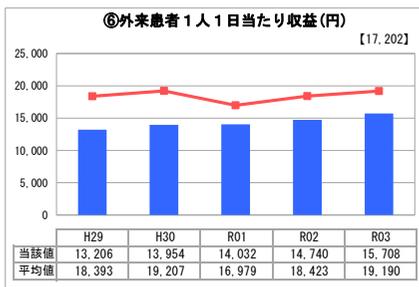
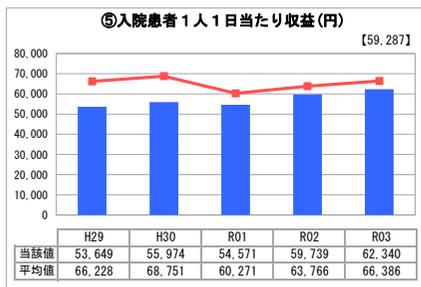
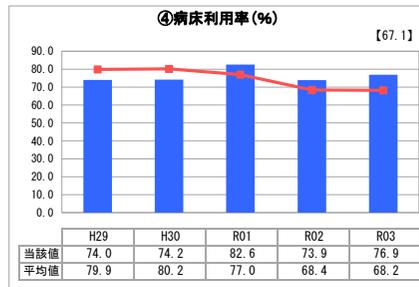
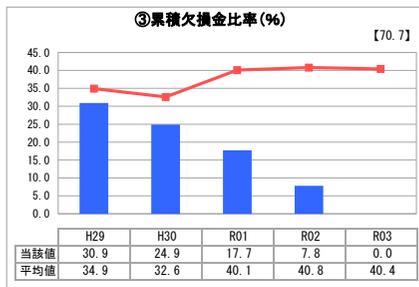
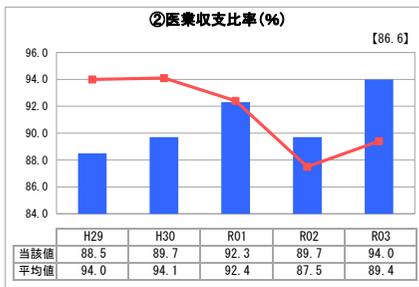
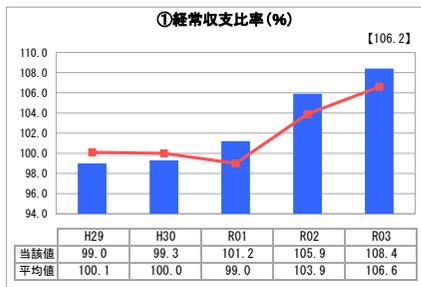
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
446	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
46	4	496
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
423	-	423

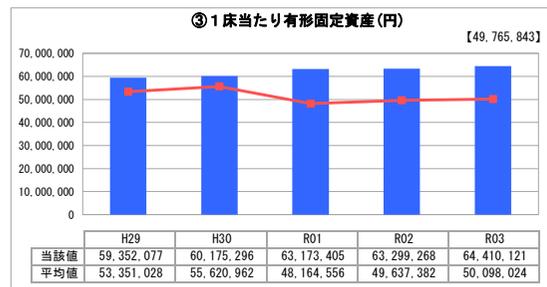
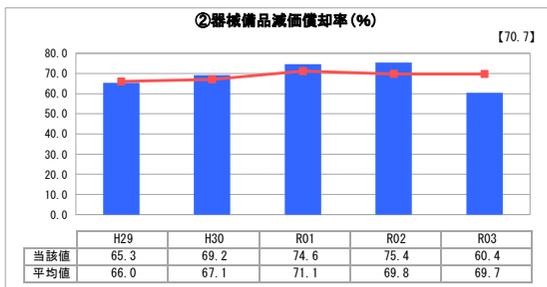
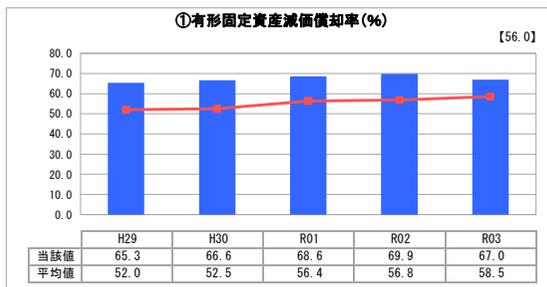
当該病院値（当該値）	類似病院平均値（平均値）
■	-
□	○

【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
平成12年度	-	-
年度	-	-
年度	-	-

I 地域において担っている役割

公立置賜総合病院は、置賜二次保健医療圏の中核医療機関として高度・専門医療を提供するとともに、小児・周産期医療、精神医療等の専門医療を担い、災害拠点病院としての機能、臨床研修指定病院として研修医を育成する教育機能も有している。
また、置賜地域唯一の救命救急センターを併設し、救急医療を担っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

入院・外来の「1人1日当たり収益」は平均入院日数の短縮や手術件数増等により増加し、入院・外来患者数も増加したため、「医療収支比率」は4.3ポイント改善した。なお、精神科を有するため、入院・外来ともに診療単価は他病院と比較すると低い状況にある。
「経常収支比率」は、「医療収支比率」の改善や新型コロナ関連補助金等により2.5ポイント改善し、これに伴い累積欠損金が解消された。
「職員給与費対医療収益比率」は医療収益の増により4.9ポイント改善した。

2. 老朽化の状況について

「有形固定資産減価償却率」は、前年度より2.9ポイント減少したが、平均値より8.5ポイント上回っており老朽化が進んでいる。
「器械備品減価償却率」は、令和3年度に医療情報システムを更新したことにより、前年度より15ポイント減少し、平均値より9.3ポイント下回った。
以上から、類似病院と比較すると、有形固定資産の中でも特に建物（施設・設備）の老朽化が進んでいると分析され、今後は、大規模な施設・設備改修等による支出が増加することが見込まれることから、施設・設備の計画的な改修・修繕が必要である。

全体総括

新型コロナウイルス感染症が依然流行するなか、地域医療機関や福祉との連携強化を図り、患者数の確保や診療報酬の向上に努めてきたことで、医療収支比率は大きく改善することとなった。
今後は、先行きが不透明な感染症への対応、人口減少に伴う患者数の減少、建物老朽化による支出の増加等の課題が懸念されるため、引き続き診療単価の増額等による収益の確保や費用の削減を図るとともに、国・県の施策や患者動向を注視し適切に対応していくことにより、健全経営に努めていく必要がある。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（令和3年度決算）

山形県置賜広域病院企業団 公立置賜長井病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	10	-	透訓	-
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
-	13,073	第2種該当	-	15：1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

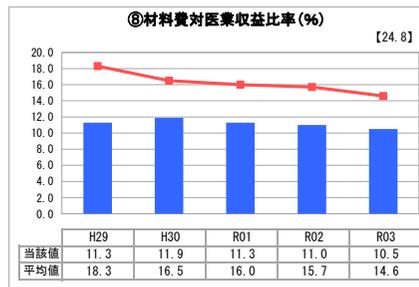
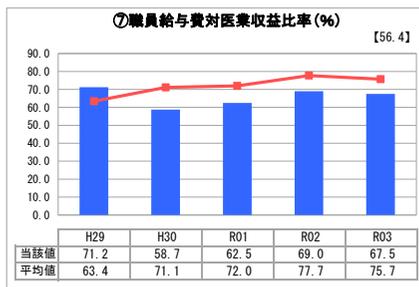
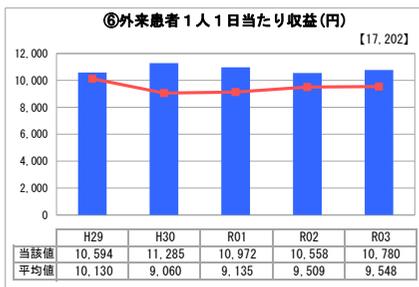
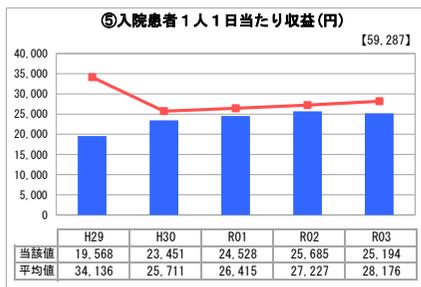
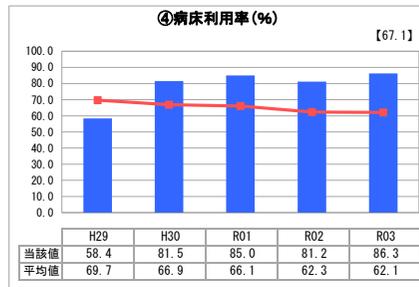
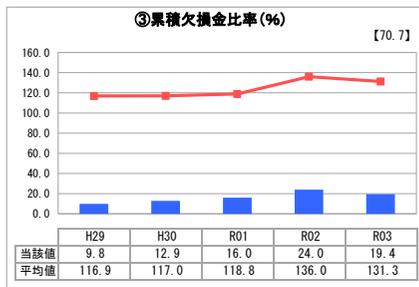
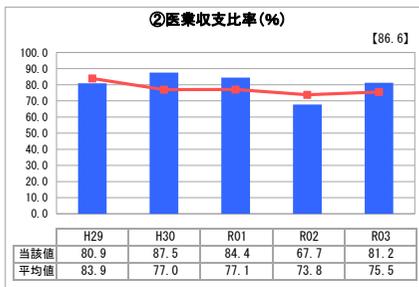
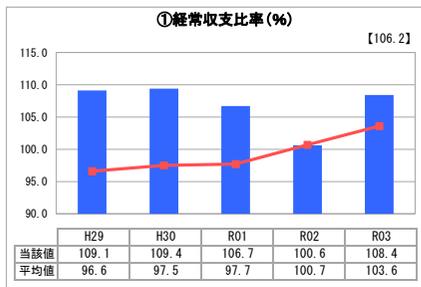
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
50	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	50
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般＋療養）
50	-	50

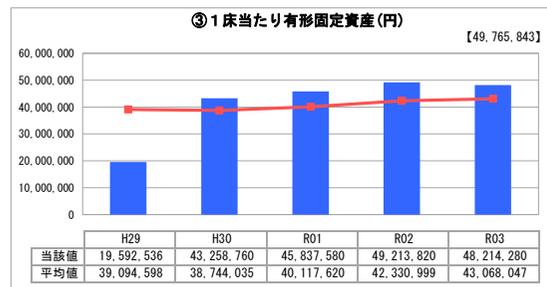
当該病院値（当該値）	類似病院平均値（平均値）
■	-
□	-

【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

公立置賜長井病院は、高度医療や救急医療を提供する公立置賜総合病院との機能分化及び密接な連携を図りながら、より住民に身近なサテライト医療施設として、初期医療や回復期医療を提供している。

また、『長井市地域包括支援センター長井病院支所』・『長井市訪問看護ステーション』・医師会による『地域在宅医療連携推進室』を院内に開設し、地域医療との連携に取り組んでいる。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

「経常収支比率」は、平均値よりも4.8ポイント上回り、前年度より7.8ポイント増加している。「医療収支比率」は、平均値よりも5.7ポイント上回り、前年度より13.5ポイント増加している。

要因として、入院患者数が新型コロナ流行前程度に回復するとともに、新型コロナワクチン接種費用請求により医療収益が増加し、一方、病院改革に伴う建物解体の実績がなかったことにより固定資産除却費が減少したことが挙げられる。

2. 老朽化の状況について

「有形固定資産減価償却率」は、前年度より2.9ポイント増加したものの、平均値より1.7ポイント下回っている。

「器械備品減価償却率」は、前年度より0.6ポイント増加し、平均値より5.0ポイント上回っている。

令和3年度決算時において、病院改革事業中であり、一部新棟が稼働していることから、有形固定資産減価償却率は平均を下回っているが、平成12年度に市立病院を一部事務組合立病院に再編統合した際、既存財産をそのまま一部事務組合に移管したため、法定耐用年数を大きく超える医療機器があるなど保有資産の老朽化が進んでいる。

全体総括

医療収益の増加と医療費用の減少により「経常収支比率」及び「医療収支比率」は前年度より改善した。

今後、特に外来患者数の減少と予想されるため、引き続き医療収支を改善し、経営基盤の強化に努める必要がある。

病院建物の耐震性不足や老朽化等に伴う病院改革事業（ECI方式による工事）は、令和元年度に着手し、令和4年度に完了の予定である。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（令和3年度決算）

山形県置賜広域病院企業団 公立置賜南陽病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	その他
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	10	-	訓	-
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
-	3,850	第2種該当	-	15：1

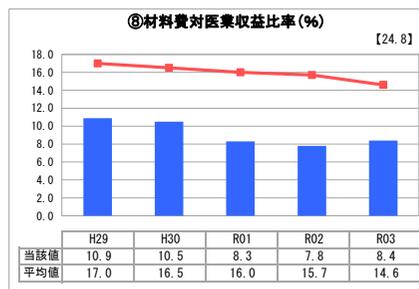
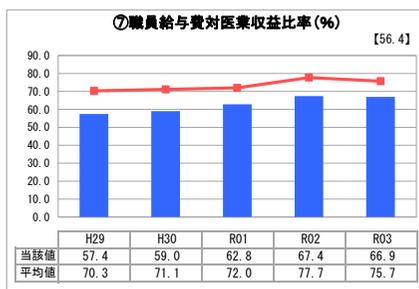
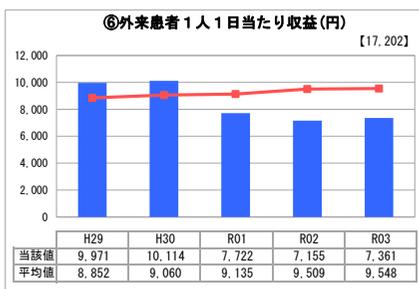
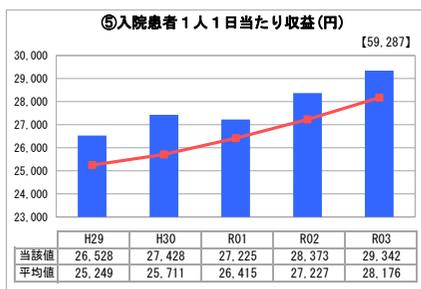
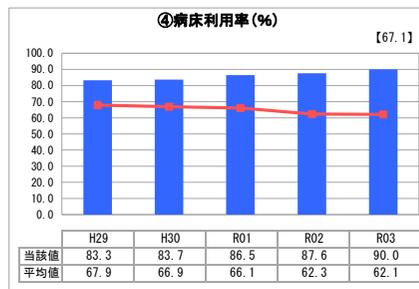
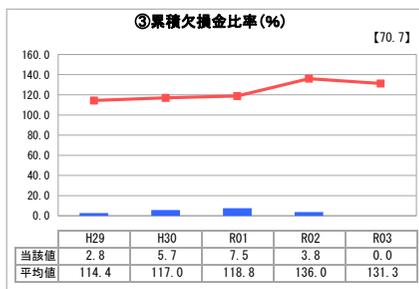
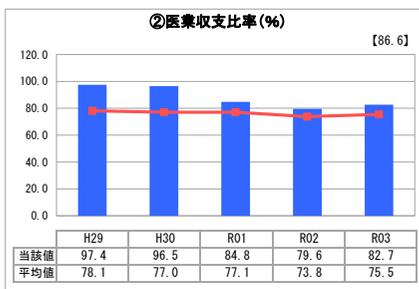
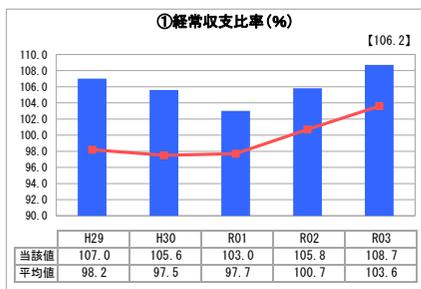
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

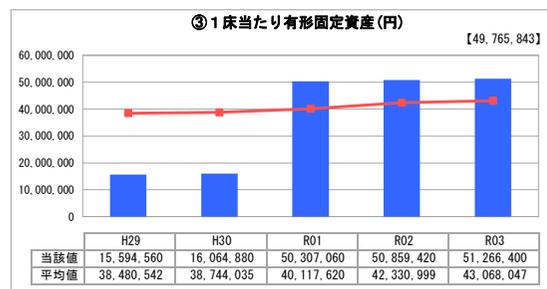
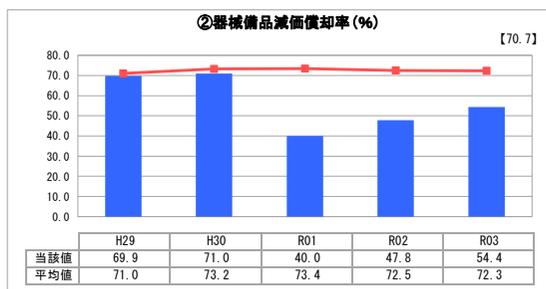
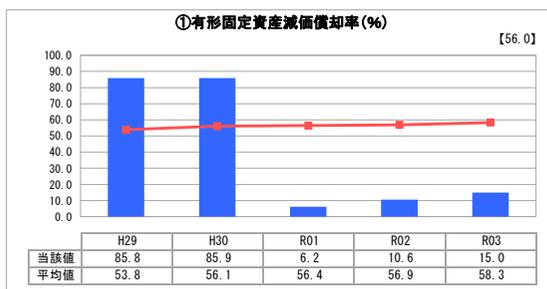
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
50	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	50
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般＋療養）
49	-	49

グラフ凡例
■ 当該病院値（当該値）
— 類似病院平均値（平均値）
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

I 地域において担っている役割

高度医療や救急医療を提供している同企業団の公立置賜総合病院と機能分化を図りながら、より住民に身近なサテライト医療施設として、初期医療や回復期・慢性期医療の提供を行っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

外来患者・入院患者数の増加並びに診療単価の増加により医業収支比率は、前年度比3.1ポイント改善している。また、新型コロナウイルス関連補助金等による増収の影響もあり経常収支比率も2.9ポイント改善している。新病院改築後、人工透析室の閉鎖に伴い、「外来患者1人1日当たり収益」が類似病院の平均値を下回っている状態が続いているが、ほかの指標については平均値以上を維持している。

2. 老朽化の状況について

老朽化に伴い、令和元年6月全面改築

※新病院の構造
鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）地上2階

全体総括

新病院は山形県地域医療構想や各種将来推計を踏まえ、公立置賜総合病院との機能分化と連携、在宅医療の推進と連携強化を推進する医療施設として整備され、建物の耐震性能確保や患者の療養環境改善も図られた。
新病院改築事業に伴う減価償却費の増加や昨今の新型コロナウイルス感染症への対応、物価上昇・電気料金の高騰などにより厳しい経営環境がづくなか、地域住民への医療提供体制を確保するために、更なる収入の確保・経費の削減に取り組んでいく。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。